4 地域の移動特性・ニーズ

以下に「住民アンケート調査」、「バス乗降調査」及び「来訪者Webアンケート調査」の結果概要を示すが、詳細な調査結果は別添の「地域の移動特性・ニーズ編」に記載する。

4-1 住民アンケート調査

（1）目的

住民の日頃の交通行動や公共交通に対する要望・課題を把握するため、地域に居住する2,300 世帯を対象として、郵送によるアンケート調査を実施した。

（2）実施概要

実施の概要は下表のとおりである。

表 4-1　住民アンケート調査の実施概要

調査対象	留萌地域に居住する世帯
調査期間	2022（令和 4）年 9 月 1 日（木）～9 月 18 日（日）
配布数	2,300 票（内、宛先不明による返送 13 票）
回収数(回収率)	980 票（回収率 42.9%） うち Web 調査は 107 票 1,917 人の方が回答（1 票当たり 1.96 人） うち Web 調査は 208 人
配布・回収方法	郵送配布・郵送もしくは Web 回答による回収

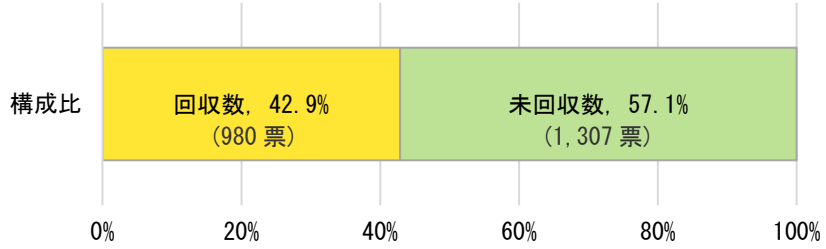

図 4-1　回収の状況

（3）調査結果概要

質問	結果概要
基本属性	
Q1.居住地域	・「留萌市」が 4 割
Q2.最寄りのバス停は歩いて行こうと思う場所にあるか	・「ある」が 8 割強
Q3-1.世帯人数	・「2 人」が 4 割強、「1 人」が 2 割
Q3-2.世帯の年齢構成	・「40 歳以上」が 7 割
Q3-3.運転が困難な方の有無	・「いる」が 3 割
Q4.回答者の年齢	・「50 歳以上」が 7 割
Q5.回答者の性別	・「男」「女」がほぼ半分ずつ

Q6.回答者の運転免許の所持状況	・「持っている」が 7 割強

質問	結果概要
移動の状況	
Q7.普段運転できる車を持っているか	・「持っている」が 9 割
Q8-1.自家用車を利用する一番の理由	・「いつでも利用できるから」が 8 割強
Q8-2-1.何歳まで運転したいか	・75～84 歳が 6 割弱
移動の状況	
Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段	・「バス等の利用」が 5 割
Q8-3.運転に不安を持つときがあるか	・「冬や長距離運転に不安がある」が 5 割
Q8-4.運転について、不安な内容	・「冬の運転が不安」が 5 割弱
Q8-5.事故を回避できる自信があるか	・「自信がある」が 4 割
Q8-6.免許返納の特典等があれば返納しやすくなるか	・「返納しやすくなる」、「少し返納しやすくなる」がそれぞれ 3 割弱
Q9.自分以外が運転する自家用車での移動状況	・「車を使用できない」が 1 割強
Q10.固定電話、携帯電話、スマートフォンの所持状況	・「スマートフォンを保有」が 5 割強
日常的な外出について	
Q11.公共交通の利用	・「特急はぼろ号」、「高速るもい号」が「年に数回の利用」がある
Q12-1-1.主な外出の目的	・「通勤」が約 5 割
Q12-1-2.曜日別の主な外出の目的	・曜日に関わらず多様な目的が見られる
Q12-1-3.平日、休日別の主な外出の目的	・平日は「通勤」、「通学」、休日は「観光」、「レジャー」
Q12-1-4.主な目的別の外出日数	・「買物」、「通院」は週に 1.4 日程度
Q12-2-1.家を出た時間、帰宅した時間	・出発は「8 時」が多く、帰宅は「18 時」が多い
Q12-2-2.平日、休日別家を出た時間、帰宅した時間	・出発時刻は「8 時」、帰宅は「18 時」が多いが、平日の方が家を出ている人数が多い
Q12-3.平日、休日別の外出時の行先	・「留萌市」が多い
Q12-4-1.行きに利用した交通手段 Q12-5-1.帰りに利用した交通手段	・「自家用車」が多くを占める
Q12-6.バスより少し高い運賃で、自宅と目的地を直接結ぶ公共交通が運行する場合、変えても良い曜日はあるか	・変えてよいとの回答は約4割、その内訳はどの曜日もほぼ同じ割合
Q12-7.病院・高校・商業施設の行先	・「留萌市立病院」、「留萌高等学校」、「マックスバリュ留萌店」が多い
Q12-8.大きな施設に行く場合の行先	・「留萌市立病院」、「マックスバリュ留萌店」が多い
今後の公共交通への要望等	
Q13.自家用車に頼らないとき、公共交通はどうあってほしいか	・「バスとタクシーの中間」が 3 割強
Q14-1.感染症拡大前と比べた公共交通の利用頻度	・「変わらない」が 4 割、「減った」が 2 割強

	Q14-2.外出そのものが減ったか、公共交通以外の移動手段に変わったか	・「外出自体が減った」が 8 割
質問		結果概要
今後の公共交通への要望等		
	Q14-3.感染症流行が終息した後、公共交通利用促進のための有効な方策	・「対策なし」、「格安での利用」、「少人数による輸送」が比較的多い
	Q15-1.路線バスの利用状況について	・「現在利用していないが今後は利用する」、「今後も利用しない」がそれぞれ 3 割
	Q15-2.路線バスの満足度について	・「始発時刻」、「運賃」、「乗り降りのしやすさ」は満足が多い ・「便数」、「待合環境」は不満が多い
	Q15-3.電話予約型公共交通は利用するか	・「利用すると思う」が3割強
	Q15-4.既に利用している場合、どの程度利用しているか	・「週に 1,2 回」、「月に数回程度」がそれぞれ 3 割
	Q15-5.予約型公共交通が近隣市町村まで運行した場合、運賃が〇円高くなっても利用するか	・「200 円高くなっても利用する」が 8 割、「400 円高くなっても利用する」が 4 割
	Q15-6.公共交通を維持するための方針について	・「税金による補填」や「長大路線の分割」についての理解度が高い
	Q16-1.月 3,000 円、月 6,000 円の公共交通があった場合、利用するか	・「月 3,000 円であれば利用する」が 3 割
	Q16-2.沿岸バスを利用する際の支払い方法	・「現金」が 3 割
	Q16-3.10 日程度の往復運賃で 1 か月を通して利用できるバスがあった場合、利用するか	・「利用する」が 2 割強
	Q16-4.パークアンドバスライドで温泉や食事の割引も受けられる場合、利用するか	・「利用する」が 3 割
	Q16-5.バス運転手として就業を考える場合、バス会社が行うべき支援策	・「大型二種免許の取得補助」、「短時間勤務など勤務体系の運用」が比較的多い
	Q16-6.公共交通にあると便利なサービス	・「割引サービス」、「乗り継ぎしやすさ」、「休憩待合室」が比較的多い

4-2 バス乗降調査

（1）調査の目的

今後の地域公共交通の必要性や課題を抽出するため、地域を運行する路線バス乗客の利用実態と利用者意識を把握するバス乗降調査(カウント調査及びヒアリング調査)を実施した。

（2）調査の概要

調査の概要は以下のとおり。

表 4-2　バス乗降調査の概要

区　分	バス路線名	調査方法	平日の調査日	休日の調査日
高速バス	特急はぼろ号	沿岸バス調べ	令和 4 年 9 月 5 日(月)	令和 4 年 9 月 4 日(日)
	特急ましけ号	同上	同上	－
地域間幹線系統	留萌旭川線	北空知 4 町地域公共交通計画調査	令和 3 年 7 月 13 日(火)	令和 3 年 7 月 17 日(土)
	留萌別苅線	バス乗降調査	令和 4 年 9 月 9 日(金)	令和 4 年 9 月 10 日(土)
	幌延留萌線	同上	令和 4 年 9 月 5 日(月)	令和 4 年 9 月 4 日(日)
広域生活交通路線	羽幌留萌線	同上	同上	同上
市町村単独補助路線	初山別留萌線	同上	同上	同上
	豊富羽幌線	同上	同上	同上
	上平古丹別線	同上	同上	同上
	羽幌古丹別線	同上	同上	同上
	天塩更岸線	同上	同上	同上
	別苅雄冬線	同上	令和 4 年 9 月 9 日(金)	令和 4 年 9 月 10 日(土)
地域内フィーダー系統※	達布線	同上	同上	同上
	清川線	同上	同上	同上
	上遠別線	同上	同上	同上

※　地域内フィーダー系統

過疎地域や交通不便地域から地域内交通ネットワークに接続する交通で、国の地域公共交通確保維持改善事業における地域内フィーダー系統補助の対象となっているバス路線。

（3）カウント調査結果

①結果の概要

各路線の乗降者数、市町村間・地域間の移動の状況は以下のとおりである。

表 4-3　乗降者数と移動の状況

区分	バス路線名	平日 乗車人数	休日 乗車人数	乗降者が多い区間、移動の状況
高速バス	特急はぼろ号	127 人	174 人	-
	特急ましけ号	28 人	-	-
地域間幹線系統	留萌旭川線	103 人	137 人	・留萌市中心部―旭川市中心部間での利用者が多い状況。
	留萌別苅線	279 人	209 人	・増毛町市街地―留萌市街地間の移動が中心。
広域生活交通路線	幌延留萌線	505 人 ※	174 人 ※	・幌延町から留萌市に進むにつれ乗降増加傾向。 ・休日は利用が少ない。 ・北部では天塩町を中心に、中部では羽幌町を中心に、南部では留萌市を中心に移動。
	羽幌留萌線			
市町村単独補助路線	初山別留萌線			
	豊富羽幌線			
	上平古丹別線	15 人	4 人	-
	羽幌古丹別線	22 人	4 人	-
	天塩更岸線	1 人	0 人	-
	別苅雄冬線	0 人	2 人	-
地域内フィーダー系統	達布線	20 人	0 人	・小平中央―達布地区等各郊外部間で移動。
	清川線	4 人	0 人	・清川方面と市街地の遠別中学校の間を移動。
	上遠別線	6 人	0 人	・上遠別方面と遠別小学校及び沿岸バス遠別出張所間で移動。

※　幌延留萌線、羽幌留萌線、初山別留萌線及び豊富羽幌線については、留萌市から豊富町までで経路の一部又は全部が重複し、同一車両のまま複数路線を運行する場合もあることから、路線毎で区分せずとりまとめた。

【バス乗降調査カウント調査総括図（平日）】

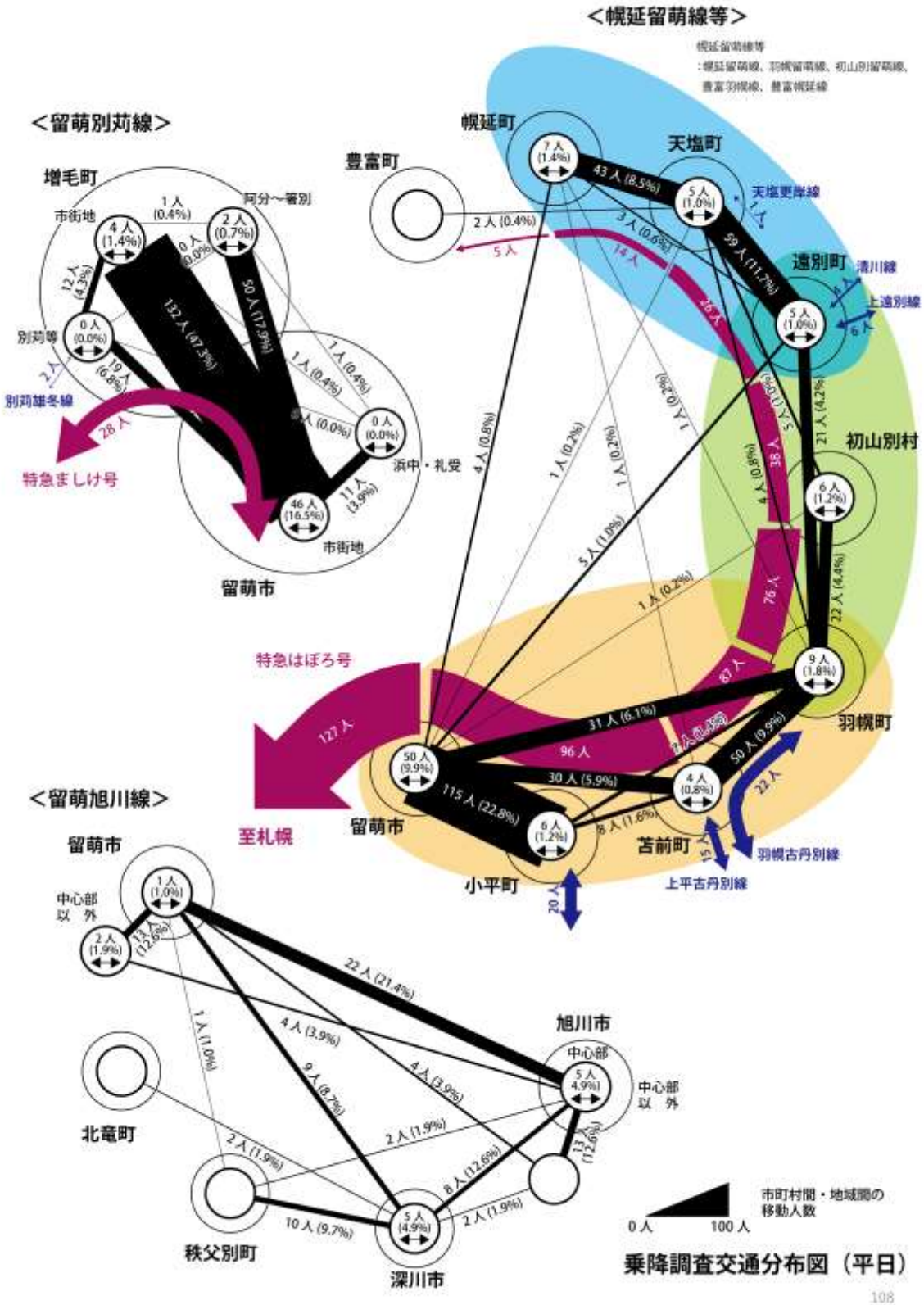

図 4-2　平日の市町村間･地域間の移動の状況

【バス乗降調査カウント調査総括図（休日）】

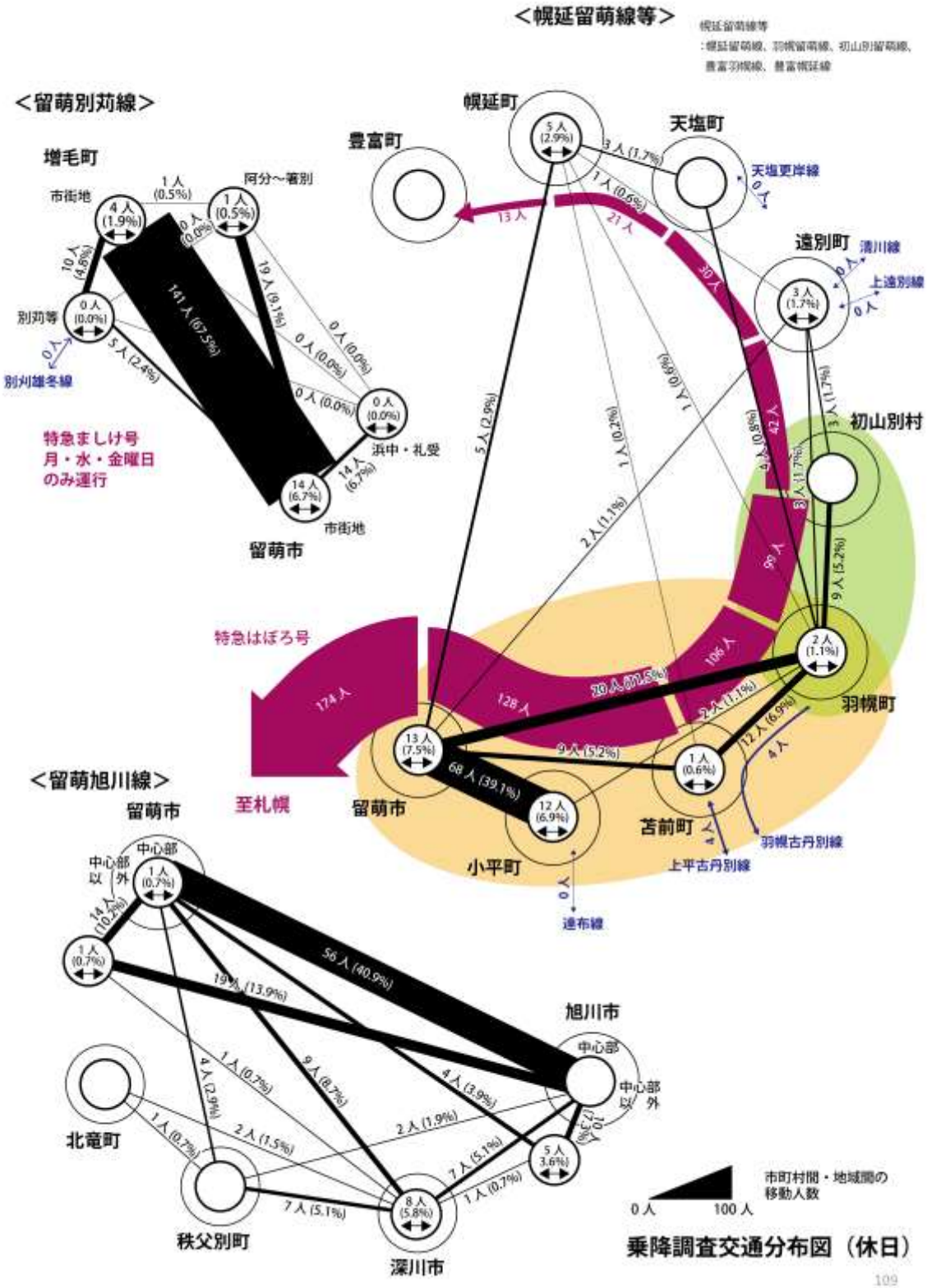

図 4-3　休日の市町村間･地域間の移動の状況

（4）ヒアリング調査

①調査の対象

ヒアリング調査は、バス乗降調査時にバスの車内において乗客を対象に行った。

表 4-4 ヒアリング人数

バス路線名	ヒアリング人数
留萌別苅線	317 人
幌延留萌線	287 人
羽幌留萌線	110 人
初山別留萌線	36 人
豊富羽幌線	36 人
達布線	20 人
清川線	4 人
上遠別線	6 人
合計	816 人

※　幌延留萌線、羽幌留萌線、初山別留萌線及び豊富羽幌線について、カウント調査では路線の重複等を考慮し路線毎で区分しなかったが、ヒアリング調査では区分してとりまとめた。

②ヒアリング調査結果

質問	結果概要
基本属性	
Q1.居住地域	・清川線、上遠別線は遠別町民の利用がほとんどを占めている
Q2.年齢	・乗客の年齢は 10 代が多い
Q3.行き・帰りの利用について	・「行き・帰りとも」の利用が多い
Q4.公共交通の利用頻度	・羽幌留萌線、豊富羽幌線は半数の乗客がほぼ毎日利用
Q5.外出の目的	・多くの路線で通学の割合が最も高い
Q6.行く・行った施設	・高校が多く、通学利用が多い
Q7.乗り継ぎの有無	・「乗り継ぎをしない」が多い
Q8.乗り継ぐ路線	・「JR 留萌本線」に乗継ぐと答えた割合が多い
Q9.各路線の満足度	
留萌別苅線	・「便数」の「不満、やや不満」が 2 割強
幌延留萌線	・「便数」の「不満、やや不満」が 2 割
羽幌留萌線	・「便数」と「最終時刻」の「不満、やや不満」が 4 割
初山別留萌線	・「便数」の「不満、やや不満」が 5 割弱
豊富羽幌線	・「便数」の「不満、やや不満」が 2 割強
達布線	・「便数」の「やや不満」が 1 割強
清川線	・「不満、やや不満」との回答はなし
上遠別線	・「不満、やや不満」との回答はなし

4-3 来訪者 Web アンケート調査

（1）目的・実施概要

当地域を訪れた方を対象に、来訪の目的や頻度等の実態を把握するための Web アンケート調査を実施した。

表 4-5 来訪者 Web アンケート調査の実施概要

対象	道内・道外からの来訪者各 250 名
配布・回収方法	NTT ドコモ契約者へのアンケート配信

（2）アンケート結果の概要

アンケートの集計結果を下記に示す。また、各設問の結果の左側もしくは上側に道内来訪者の回答、右もしくは下側に道外来訪者の結果を示す。

①結果の概要

質問	結果概要
基本属性	
Q1.居住地域	・道内は旭川市、道外は東京都が多い
Q2.性別	・道内、道外どちらも男性が 6 割以上
Q3.年齢	・道内、道外どちらも 45 歳以上が 8 割
Q4.職業	・道内、道外どちらも会社員が 3 割
来訪実態	
Q5.直近の来訪月	・道内、道外どちらも 8 月が最も多い
Q6.主な来訪目的	・道内、道外どちらも観光が最も多い
Q7.どのような観光を体験したか	・道内は食文化が 4 割、道外はアウトドアが 3 割強
Q8.来訪した市町村	・道内、道外どちらも南部の市町が最も多い
Q9.過去5年以内の来訪回数	・道外は 1 回が 5 割強
公共交通のニーズ把握	
Q10.来訪時の利用交通手段	・道内、道外どちらも自家用車が多い
Q11.公共交通を利用しない理由	・道内、道外どちらも自家用車が便利だからが 6 割強